

平成 27 年度の博物館実習（学内）における企画展示

山内 利秋

平成 27 年度の学内実習

九州保健福祉大学学芸員養成課程での博物館学内実習は平成 27 年度で 5 ヶ年度目を迎えた。今回も実習生による企画展示を主とした学習活動を通じて、博物館学芸員として必要な様々なスキルの習得を目指した。4 年次生前期にあたる授業期間は一般企業への就職を希望する学生はどうしても就職活動に集中せざるを得ないものの、授業時間内かどうかに関わらず、皆自主的に企画へ取り組んでいる姿が印象的であった。

展示開始までの作業工程2015

4月16日	4月23日	4月30日	5月7日	5月14日	5月21日	5月28日	6月4日	6月11日	6月18日	6月25日	7月2日	7月9日	7月10日	7月20日	7月23日
企画原案策定	資料収集・調査(全員での作業)														
	企画案策定・分担決定	企画原案作成者、広報とともに にうちあわせ									シフト決定				
	展示担当、企画作業											展示作業日	7/10～ 7/20、 企画展示 実施(火曜 日は休み)	後片付け (18時頃予 定)	最終評価 ワーク ショップ
	広報、この間に企画原案 作成者とともに会場打ち 合わせ	広報、解説書作成													
		広報、マスコミ等にアナウンス													
		教育普及企画													

図 1：学内実習における展示企画の作業スケジュール

実習では、問題抽出→テーマ設定→企画立案→展示製作・広報（途中で中間評価）→展示・教育普及→最終評価を作業サイクルとして進めている（図 1）。期間的には半期 4 ヶ月間弱とあまり長くはないために作業準備には力量を要するが、例年、3 年次生の段階で、実習を希望する受講生には座学だけではない自主的な活動への取り組みを促しており、この段階での学生の参加が 4 年次の段階で企画の良し悪しを左右していると考えられる。

平成 27 年度の実習生は 3 年次に積極的な学習姿勢を有していた事もあり、学内実習の受講を開始する段階でも極めて活発な議論を交わし、それが企画にも反映されていた。しかしながら毎年度同様のモチベーションが保たれている訳ではなく、安定的な学習効果を得るために、実習以前にいかに様々な学習への取り組みを充実させていくかは課題がある。

問題抽出から企画立案、展示制作まで

例年、地域社会の課題解決につながる問題の抽出を取り上げ、そこから企画テーマを導き出すという流れをつくっている。今年度は一昨年度の実習生と同様、環境保全がテーマとなった。実習生達の議論の進展をうかがってみると、大抵大きなテーマを掲げそのまま企画内容としてしまう傾向がある。従ってここから実現可能なレベルにまで実習生自らが納得し、内容を絞り込んでいく作業が必要とな

る。27年度は、その方法としてX軸・Y軸に評価軸を設け、アイデアをグラフにプロットしていくという方法を取った。具体的にはX軸には「社会的に価値があるか」、Y軸には「博物館企画として相応しいか」という評価軸を掲げ、個々のアイデアを配置していく事によって評価を客観化し、その最も高いアイデアをテーマとした。この方法は実習生間でアイデアの客観化が出来たのみならず、例年みられたような個々の学生での内容の理解への差が減少した事を確認した。

また、これによって学生の関与度の開きも少なくなる傾向があった。時期的に就職活動期と重なるために、学生によってはどうしても展示制作等へ参加する時間が短くなってしまう事があるものの、こうした学生であっても自主的に物事を考え、アイデアを持ち寄って自らの役割を果たしていると考えられた。

展示運営と企画の事後評価

『森林（もり）からのメッセージ～知つてほしい動物たちの今～』と題された企画展示は、例年と同様延岡市民協働まちづくりセンターを会場とし、7月10日～7月20日の間開催した。この際展示会場において発生する様々な問題（時には小さなトラブル）をいかに解決していくかが、実習生にとっては重要となってくる。それは様々な来場者への個別対応や、動線がわかりにくい場合のサインの掲示法、補助パネル・解説シートの追加やキャプションの変更・語句修正、展示資料の破汚損と修理、解説書の印刷製本の追加、そしてワークショップにかかる集客から実施・安全面の確保、さらにはこれら様々な事象をいかにタイムシフトの異なる担当に申し送り出来るか等、幅広い範囲に及んでいる。

こうしてみてくると、学芸員課程における学内実習という一つの授業であっても、その実は実習生が大学生としてこれまで学習してきた様々な授業との関係の上に成り立っている事までもみえてくる。例えば実習生達が自ら展示企画でのシフトを構築していくかに効率的に申し送りを行うかについては、その方法を本学科で実施している動物飼育から応用していた。

実習生が自分達を客観的に確認するために企画の事後評価を行っている。これについては負の視点を持たせず、「より以上何が出来るか」というプラスの視点で検討していく方が、次年度以降の後輩達に伝えていくという役割意識が強くなり、結果的に改善点を確認しやすくしている傾向がある。

もちろん、それを次の実習生に明確に伝えていくのは担当教員の役割である。学年によっては、自意識の強さから先輩達の取り組みを無視したがるケースが出てくる事もあるだろう。無論、こうした場合であっても、彼らが高い学習効果を得るために方略を検討し、実践していく必要があると考えている。



写真 1：地域社会の課題を抽出する



写真2：企画の実現可能性を検討する

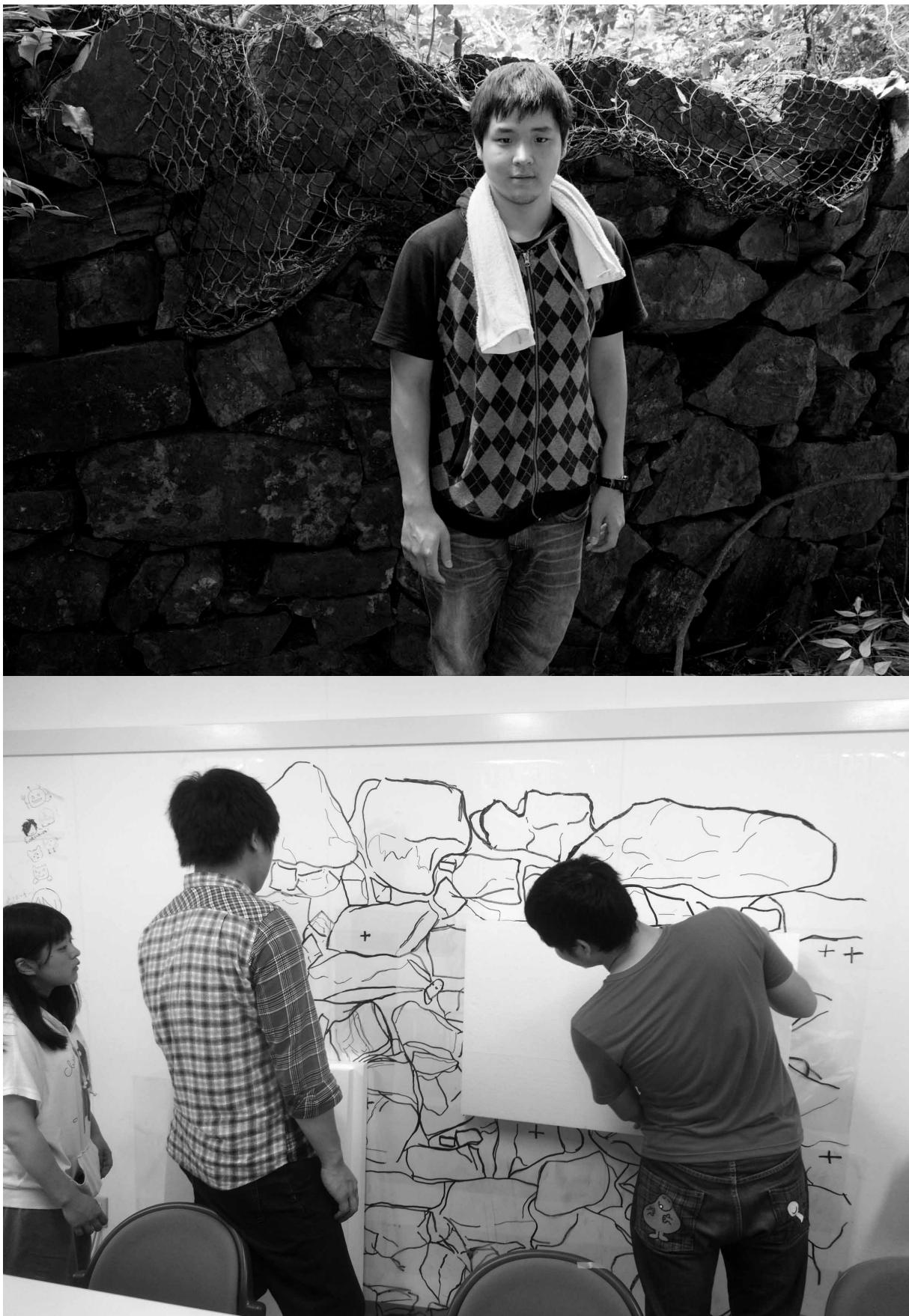


写真3：シシ垣を調査し、模型を作製する



写真4：完成したシシ垣模型（スケール1/1）



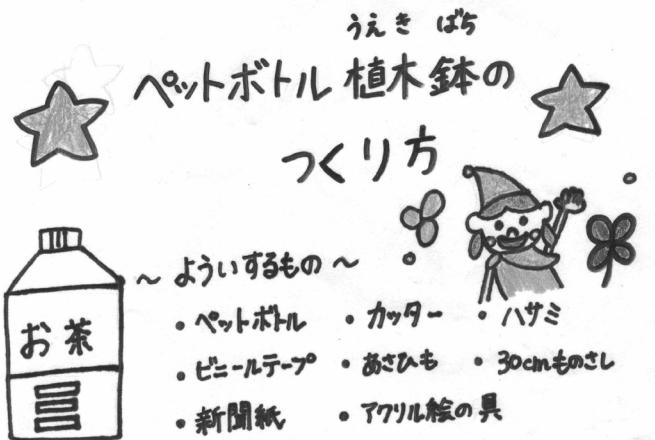
写真 5：展示準備中

写真6：展示会場のハノーラマ写真

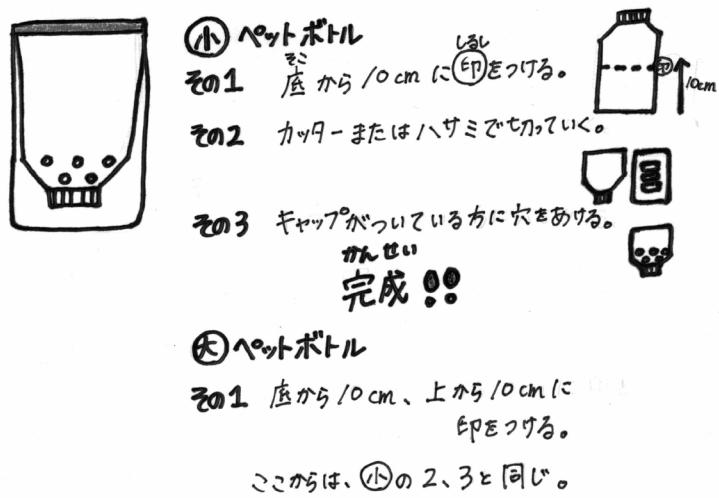




写真7:展示会場入り口(上),ワークショップのファシリテーション(下)



たてうえきばち



どうぶつうえきばち

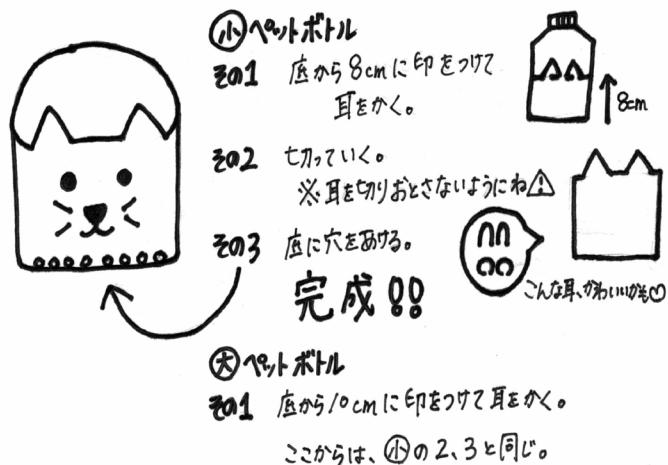


図2：ワークショップでの配布資料（部分）

何を行えたか

工藝的分類

出をアリテル
。たゞアヤシニ

口調査 情報収集がアキラ

展示 = 向けた作業を
すすめる二ことができた。

本場業者とミニコマニヤーを一括して購入する方法

者當來歸附者，則是二三子之責也。

This image shows a handwritten timeline of a project, likely a school assignment, spanning from January 1st to January 15th. The timeline is organized into two main columns: '今日の分類' (Classification for today) on the left and '何を行ったか' (What was done) on the right.

今日の分類 (Left Column):

- 1月1日: 製作の要領、企画立案
- 1月2日: デザイン、足跡と足跡の木
- 1月3日: 色画用紙で、足りなくて、足跡の木
- 1月4日: 地元の人からの図書館だけ
- 1月5日: 1997年の説明文もつまみ
- 1月6日: 動物の写真を撮る
- 1月7日: 説明文もつまみ
- 1月8日: 説明文もつまみ
- 1月9日: 説明文もつまみ
- 1月10日: 説明文もつまみ
- 1月11日: 説明文もつまみ
- 1月12日: 説明文もつまみ
- 1月13日: 説明文もつまみ
- 1月14日: 説明文もつまみ
- 1月15日: 説明文もつまみ

何を行ったか (Right Column):

- 1月1日: 企画立案と制作の要領を学び、足跡と足跡の木のデザインを行った。
- 1月2日: 色画用紙で足跡の木を作成した。
- 1月3日: 地元の人からの図書館だけを購入した。
- 1月4日: 地元の人からの図書館だけを購入した。
- 1月5日: 1997年の説明文もつまみを読み、動物の写真を撮影した。
- 1月6日: 説明文もつまみ
- 1月7日: 説明文もつまみ
- 1月8日: 説明文もつまみ
- 1月9日: 説明文もつまみ
- 1月10日: 説明文もつまみ
- 1月11日: 説明文もつまみ
- 1月12日: 説明文もつまみ
- 1月13日: 説明文もつまみ
- 1月14日: 説明文もつまみ
- 1月15日: 説明文もつまみ

Each day's entry includes a small drawing or sketch related to the task for that day.

写真8：企画の事後評価